

平成28年度 全国学力・学習状況調査 結果概要について

枚方市立船橋小学校

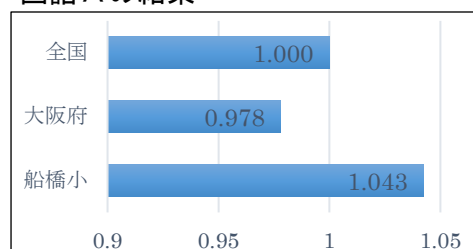
4月に全国の6年生児童を対象に行われた「平成28年度全国学力学習状況調査」について、本校の結果概要とその対応について報告します。学力調査は国語科と算数科、それぞれ「知識」に関するA問題と「活用」に関するB問題の4つで行われました。また、学習状況調査は、児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して、質問紙による85項目の調査を行いました。

【学力調査結果】

4つのテストのうち「知識」を問うA問題において、本校の平均正答率は国語科と算数科ともに大阪府及び全国を上回っており、授業始めの基礎計算プリントや定期的なつまずき調査、並びに宿題の漢字・計算・音読、及び自主学習としての自学ノートや作文等を継続して取り組んできたことで、学習の基礎・基本はほぼ定着しているものと考えられます。しかし「活用」を問うB問題は、算数科と国語科ともに全国の平均正答率をやや下回り、大阪府とほぼ同じ数字となっています。問題を読み取る力や記述式問題の解答方法、また、問題に取り組む際の時間配分などに課題があります。また、今回のような実力テストやその形式に慣れない児童が多く、中学校進学に向け今後の取り組みが必要です。

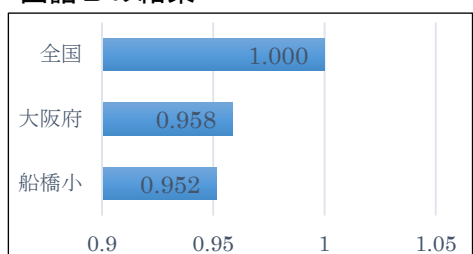
以下、4つのテストごとに全国の平均正答率を「1」とした場合の、それぞれ大阪府と船橋小の平均正答率の割合をグラフで示し、船橋小学校の課題と今後の対応についてまとめました。

国語Aの結果



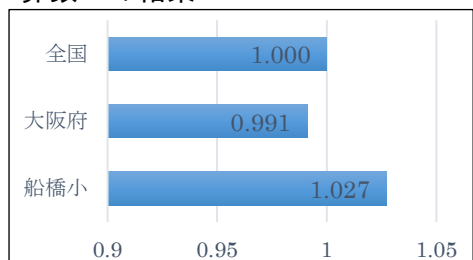
どの領域の問題も良くできており、特に、漢字やローマ字の問題は正答率が高く、「書くこと」「読むこと」に関して目的や意図に応じて書く事柄を整理し、登場する人物像について複数の叙述を基にして捉えながら、適切に問題を解く力がついています。これらは、朝学習や宿題等で基礎・基本を継続して取り組んできた成果と考えます。正答率が他に比べ低かったのは「話すこと」「聞くこと」に関係し、話し合いの説明として適切なものを選択する問題です。自分で情報を集め整理し、ペアやグループ等の学習形態を効果的に設けることで表現の場や機会を確保しながら、自分の意見や考えをはっきりと述べる活動を増やしたいと考えます。

国語Bの結果



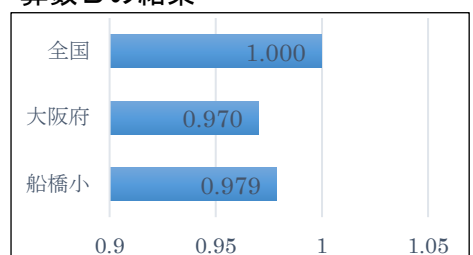
「話すこと」「聞くこと」に関係し、目的に応じて質問を整理し意図を捉える力は概ねついています。また全国や大阪府に比べ、選択式問題に対する正答率が高いものがあります。しかし「読むこと」に関係し、文章を読み比べ自分の考えを明らかにしながら問題を解く力が弱いです。記述問題への苦手意識が強く、各問題に対する時間配分がうまくできなかった児童が多いようです。図表やグラフで表現する機会を増やし、その際どのように分析しどのような考えを持ったかを具体的に記述させ、報告文等を作る取り組みを通して国語の「活用力」を高めながら、様々な問題にチャレンジさせていきたいと考えます。

算数Aの結果



「数と計算」「量と測定」「図形」の領域に関係した基本問題の正答率が高く、基礎・基本はほぼ定着しています。これは授業始まりの「3分計算プリント」や定期的な「つまずき調査」及び計算ドリルの宿題等を継続して行った成果と考えます。しかし「数量関係」の割合を苦手としている児童が多く、全体に対する部分を割合で表したり、部分の大きさとその割合から全体を求めたりする問題の正答率が低かったです。日常の様々な場面で割合が用いられていることを知り、それを数量的に捉えることで、何が基準量と比較量にあたるかを意識し、割合の大・小に見当をつけながら図や式と関連付けて理解し表す力を養っていききたいと考えます。

算数Bの結果

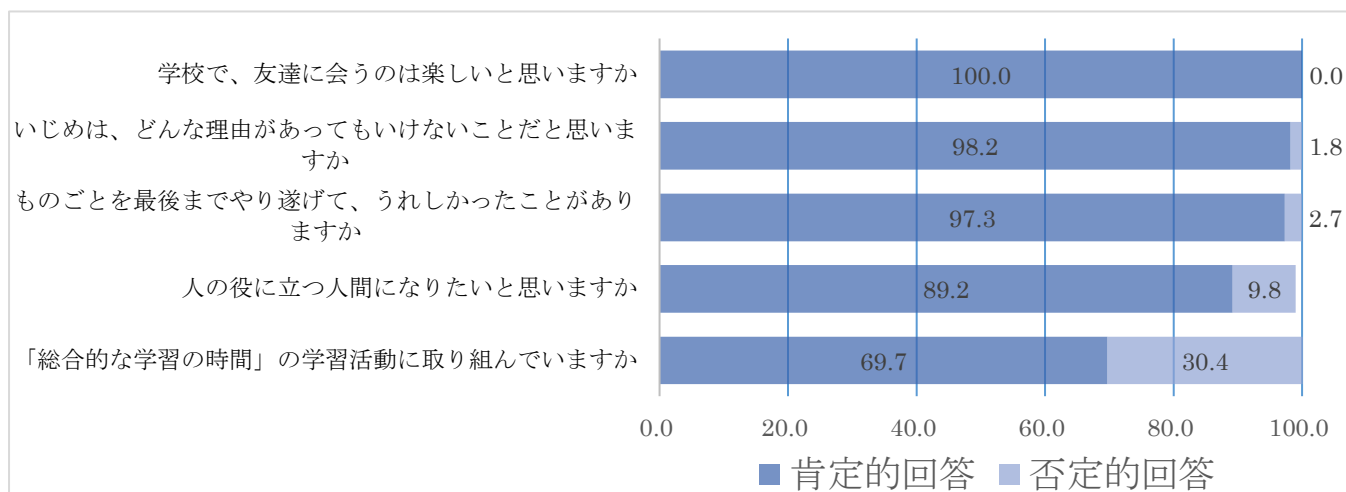


平均正答率の全国に対する割合が、A問題は上回ったのに対しB問題は下回りました。これは、基礎的な知識・理解及び技能は高いが、それらを多角的に活用し理論立てて答えを導き出す力、つまり数学的な考え方を苦手としている児童が多いと考えます。このことは、記述式問題に無回答率が高くなることからわかります。少人数授業と発展学習を組み合わせながら、見通しを持って問題解決に取り組ませ、互いの考えを解釈し説明し合う活動の充実が必要と考えます。また、日常の事象について見通しをもちながら筋道を立てて考える能力を育てるとともに、数理的な処理の楽しさに気づき、進んで生活に生かそうとする態度を育てたいと考えます。

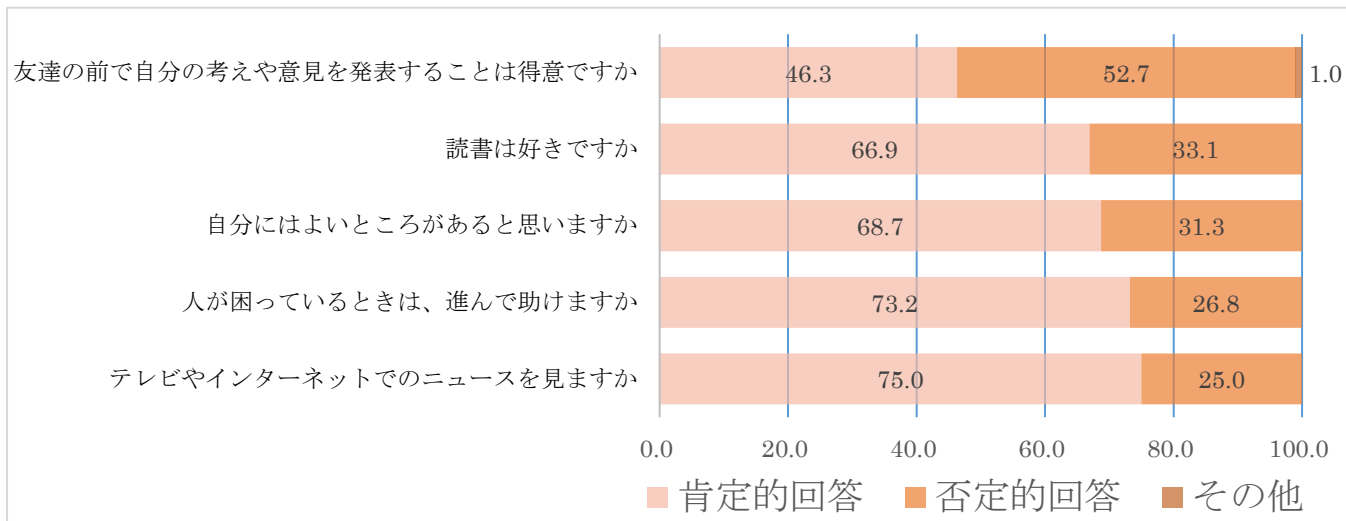
【学習状況調査結果】

児童質問紙85項目の設問から特徴的なものを選び、全国平均と比較して肯定的回答の割合が高かったものと低かったものを5設問ずつ抜き出しています。

◇全国と比べ、肯定的回答の割合が高かったもの



◇全国と比べ、肯定的回答の割合が低かったもの



100%の子どもが「学校で、友達に会うのは楽しい」と答えており、人間関係が良好で良い集団ができていると考えます。また、「いじめは絶対にいけない」と思っている子どもの割合が昨年度に続いて非常に高く、学校での集団活動を通して子どもたちがよりよい人間関係を築いていることがわかります。より良い人間関係は自律的な規範意識が育ち、学習にも行事にも前向きで充実した学校生活につながります。

「読書は好きですか」の設問については、全国平均に比べ肯定的に回答する児童の割合が少なくなっています。今年度も重点的に図書室の整備を図っており、「読書ノート」等新たな取り組みも始めています。学校でも読書活動をさらに充実させていきますので、家庭においても読書習慣が身につくよう、働きかけをお願いします。また、「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に対する肯定的回答率が、全国と比べやや低い結果となりました。自己肯定感、自己有用感の希薄さが今年度も伺えます。授業等で自己理解や自己受容を進めるとともに、学校行事を通して成就感や達成感を味わったり、委員会活動などで他者から認められたりするなど、自分への肯定的な気付きを促すことが大切と考えます。

今回の結果を参考に、船橋小学校全ての子どもたちが、笑顔で、明るく、楽しい学校生活になるよう、今後も教職員一丸となって教育活動を進めてまいります。

尚、枚方市の結果概要につきましては市教育委員会HPをご覧ください。